The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

Kanaganahalli大塔における祇園精舎布施の場面について

中　西　麻　一　子

1. はじめに

南インド・カルナータカ州に現存するKanaganahalli大塔（以下，Kanaganahalli）の「祇園精舎布施」図は，主塔の下段を円環するレリーフ石板の2ヵ所に描かれている[1]．そのうち状態の良い1つの図像に焦点を絞り，紀元後120年頃に制作されたと考えられるKanaganahalliの「祇園精舎布施」図がどのような内容を保存しているのかを，文献資料と碑文の解読に基づいて考察する．

2. 祇園精舎布施を伝える諸文献とその図像表現

「祇園精舎布施」と呼ばれるエピソードは初期経典，諸部派の律，仏伝文学及び説話に至るまで多くのヴァリエーションがある．それら諸文献のうち，初期経典の段階において，いかにして給孤独が舎衛城郊外のジェータヴァナを購入し，準備したのかを語る記述は，説一切有部所伝の『中阿含経』第28経「教化病経」のみに記されている．この経典では，病床にある給孤独が舎利弗の説法によって生天せずに快復し，給孤独が自らブッダを舎衛城へ招待した経緯を舎利弗に語る[2]．そして，最後にジェータヴァナを購入する具体的な場面が展開される．その最終場面を順に追うと，(1) 給孤独が夏安居を過ごすブッダとその弟子たちを舎衛城に招待する［T.1, no. 26, 460c9–10］→ (2) 給孤独がジェータ王子からジェータヴァナを購入する［T.1, no. 26, 461a6–7］→ (3) 金貨をジェータヴァナに敷き詰めるが，少し足りない場所がでてしまう［T.1, no. 26, 461a11–13］→ (4) その空地にジェータ王子が門を建てる［T.1, no. 26, 461a22–23］→ (5) ジェータヴァナに房舎と小房が完成する［T.1, no. 26, 461a25–26］となる．ジェータヴァナに建てられた建造物に関しては，房舎と小房のみが記され具体的な名前は見られない．それについては，諸部派の律に詳細な記述があり，南方上座部の律 *Cullavagga*（VI 4,1–

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

10）は，上記した『中阿含経』「教化病経」の最終場面（1）－（5）と同じ内容を伝承しつつも，最後にジェータヴァナに造られた建造物が種類別に列挙されている．

atha kho anāthapiṇḍiko gahapati jetavane vihāre kārāpesi, parivenāni kārāpesi, koṭṭhake kārāpesi, upaṭṭhānasālāyo kārāpesi, aggisālāyo kārāpesi, kappiyakuṭiyo kārāpesi, vaccakuṭiyo kārāpesi, caṅkame kārāpesi, caṅkamanasālāyo kārāpesi, udapāne kārāpesi, udapānasālāyo kārāpesi, jantāghare kārāpesi, jantāgharasālāyo kārāpesi, pokkharaṇiyo kārāpesi, maṇḍape kārāpesi.（Vin II 159, 16-21）そして，長者アナータピンディカは，ジェータヴァナに房舎を造らせた．小室を造らせた．倉庫を造らせた．講堂を造らせた．火堂を造らせた．食堂を造らせた．厠を造らせた．経行処を造らせた．経行堂を造らせた．井戸を造らせた．井戸堂を造らせた．温浴室を造らせた．温浴室堂を造らせた．蓮池を造らせた．会堂を造らせた．

ここでは 15 種類の建造物が，すでにブッダ在世時からジェータヴァナにも建てられていたことになっている．また，祇園精舎完成時の建造物の種類や数は諸部派の律によって異同が認められる．臥坐具犍度での主題は律蔵制作時の僧団において住居や寝具を如何に取り扱うべきかであり，そのことを記すために「祇園精舎布施」のエピソードに因んで当時使用されていた建造物の名前が付加されたと理解出来よう．

他方「祇園精舎布施」のエピソードが図像によって伝承され始めるのは，以下の表が示すように Bhārhut（150 BC）を初めとするインド初期仏教美術からであったことが知られている．

出土地	所在（現所在地）	年代	出典
Bhārhut	南東四分円欄楯第 15 柱	Śuṅga 150 BC	Coom (1956) Fig. 67
Bodhgayā	第 10 柱外側	Śuṅga 1c. BC	Coom (1935) Pl. 51, 2
Sāñcī 第 1 塔	北門東柱正面第 2 区画	Sātavāhana 1c.	MF Pl. 34, a2
Kanaganahalli	下段レリーフ石版	Sātavāhana 2c.	MASI Pl. LV,A. N 3430
Kanaganahalli	下段レリーフ石版	Sātavāhana 2c.	MASI Pl. LV,B. N 3701
Amarāvatī	Amarāvatī 博物館 No. 405	Sātavāhana 2c.	Zin (2010) Fig. 1
Amarāvatī	マドラス州立博物館 No. 147	Sātavāhana 2c.	Sivaramamurti Pl. 35, 2
Amarāvatī	Amarāvatī 博物館 No. 62	Sātavāhana 2c.	全集挿図 104

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

3. Kanaganahalli における祇園精舎布施の場面

本研究で取り上げる Kanaganahalli の「祇園精舎布施」図（図 1）には，8 箇所に碑文が確認される．そのうち 3 箇所の碑文は，ブッダ（世尊）（*bhagavato* III.2, 23），アーナンダ（*ayasa ānadasa* III.2, 18），ラーフラ（*ayasa rāhulasa* III.2, 22）と個人の房舎の屋根に刻まれている．そして，最も上部にある 2 つの建造物の屋根には，井戸（*utupāno* III.2, 21）と，Kosamba 堂（*kosabakuṭi* III.2, 19）と各々に記されている．Kosamba 堂のすぐ右側には，経行（*caka*(*mo*) III.2, 20）と側面に記された長方形の経行処が描かれいる．中央に位置する建造物の 2 階の屋根には，香堂（*ga*(*dha*)[*kuṭ*]*i*）と記されているのが認められる．Bhārhut では Kosamba 堂（Lüders 1963, B33）と香堂（Lüders 1963, B34）のみが記されていたのに対して，Kanaganahalli ではそれを継承しつつも，新たに井戸と経行処が設けられている．これら 2 つの建造物は，仏伝文学には言及が無く，第 2 節に提示した *Cullavagga* に記される 15 種類の建造物のうちの 2 つに当たる．

図 1

残りあと 1 つの碑文は，一番下のジェータヴァナへ入る門のすぐ上部ある屋根に刻まれている．*yakhi piyekaramātā*（III.2, 24）と記され，その門と屋根との間には，ピヤンカラと，その母であるヤクシニー，そして合掌しているヤクシャが描かれている．*Saṃyuttanikāya* の Yakkhasaṃyutta に属する SN10.6 Piyaṅkara に記されるこの話は，同じくジェータヴァナで起こった出来事として記されているので，図像中に合わせて描かれたと理解出来る．ところが，それに対応する『別訳雑阿含経』第 320 経，及び『雑阿含経』第 1321 経の舞台設定は，マガダ国の鬼子母宮であり，ニカーヤの伝承との相違が見られる．それはつまり，Kanaganahalli に描かれる Piyaṅkara のエピソードが，南方上座部所伝のニカーヤと同系統の伝承を汲むものであったと考えることが出来る．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

4. まとめ

Kanaganahalli の「祇園精舎布施」図は，諸文献に説かれる「祇園精舎布施」の記述のみでは解明出来ない，より踏み込んだ内容を保存している．図像表現としては，Bhārhut の「祇園精舎布施」図を継承しつつも，新たに井戸や経行処，及び個人の房舎を図像化し，他経を譲渡後の場面として追加している．これら付加された描写は，南方上座部所伝のニカーヤ及び律に該当箇所が認められる．

---

1)「祇園精舎布施」図と関係するレリーフ断片が別に 2 点確認される．Nakanishi and von Hinüber（2014, 96–97 : III.2, 15, 16）．　2)『中阿含経』[T.1, no. 26, 459c7–9].

〈略号〉

Coom (1935): Coomaraswamy, Ananda K. *La Sculpture de Bodhgayā*. Paris: Les Éditions d'Art et d'Histoire, 1935. **Coom (1956)**: Coomaraswamy, Ananda K. *La Sculpture de Bharhut*. Paris: Vanoest, 1956. **MASI**: Poonacha, K. P. *Excavations at Kanaganahalli: (Sannati) Taluk Chitapur, Dist. Gulbarga, Karnataka (Memoirs of the ASI No. 106)*. Delhi: Chandu Press, 2011. **MF**: Marshall, John, and Alfred Foucher. *The Monuments of Sāñchī*. 3 vols. Repr., Delhi: Swati Publications, 1982. **N**: Photographs at Kanaganahalli by Maiko Nakanishi (F. No. 15/2/2009EE, F. No. 20/1/ 2010-Pub). **Sivaramamurti**: Svaramamurti, C. *Amaravati Sculptures in the Madras Government Museum*. Bulletin of the Madras Government Museum, New Series, General Section, IV. Madras: The Director of Stationary and Printing, 1956. 全集：肥塚隆・宮治昭編『世界美術史大全集 東洋編 13 インド（1）』小学館，2000. **Zin (2010)**: Zin, Monika."The Purchase of the Jetavana in an Amaravati-Relief." In *South Asian Archaeology 2007: Proceedings of the 19th International Conference of the European Association of South Asian Archaeologists in Ravenna*, ed. Pierfrancesco Callieri and Luca Colliva, 369–373. Oxford: Archaeopress.

〈参考文献〉

Lüders, Heinrich. 1963. *Bhārhut Inscriptions*. Revised and supplemented by Ernst Waldschmidt and Madhhukar Anant Mehendale, *CII*, 2.II. Ootacamund: Government Epigraphist for India.

Nakanishi, Maiko, and Oskar von Hinüber. 2014. "Kanaganahalli Inscriptions."『創価大学・国際仏教学高等研究所年報』17, 別冊: 1–150, 図版 1–43.

〈図版出典〉**図 1**：N3430 を部分拡大し，修正を加えたものである．

〈キーワード〉 Kanaganahalli，仏教美術，Jetavana，給孤独，Piyaṅkara

（佛教大学大学院）

NII-Electronic Library Service